

2018年度  
事業計画書・予算書

2018年4月1日から

2019年3月31日まで

# 目 次

◆	2018年度事業方針	1
事業計画		
1	総 会	3
2	役員会	3
3	調査及び研究（定款第5条1号）	3
4	研究発表会及び学術講演会等の開催（定款第5条2号）	4
5	学術誌及び学術図書の刊行（定款第5条3号）	5
6	人材の育成（定款第5条4号）	7
7	規格の作成及び普及（定款第5条5号）	9
8	内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款第5条6号）	11
9	研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条7号）	12
10	その他この法人の目的を達成するために必要な事業（定款第5条8号）	12
	参考：事業区分の説明	14
予算		
	収支予算書	16
	収支予算書内訳表	18

# 2018年度事業方針

世界に向けた自動車に関する技術の情報発信力を高めるとともに、国際標準の場での発言力を強化することを通じて日本のプレゼンスを高め、世界的影響力向上を目指す。

将来の自動車産業を担う若手技術者の育成のため教育プログラムの拡充を進める。具体的には「2050年チャレンジ」で掲げた行動要件の実現に向けて各会議体が具体的事業の検討を開始する。

## 1. 2018年度事業計画の考え方と基本方針

### ① 国際・国内標準化活動の推進

- ・TC22（自動車）は、「第10次自動車に関する規格制定・改正長期計画（2016～2020）」、TC204（高度道路交通システム）は、「ITS分野の国際標準化戦略5か年計画2017年」の遂行を通じて日本の優れた技術（自動運転、電動車、情報通信／情報セキュリティ）の標準化活動をさらに充実、強化していく
- ・自動運転技術に関する標準化活動については、日本が国際議長・幹事国を務める TC22／SC32（電子・電装）およびコンビーナ（議長）を務める TC204／WG14（走行制御）におけるリーダーシップにより、重要かつ具体的なシステムや技術の標準化項目を戦略的かつ積極的に日本から提案する
- ・自動運転標準化検討会において、日本自動車工業会、日本自動車研究所、関連省庁／団体（他業界を含む）および内閣府実施の戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）等との連携を推進するとともに、自動運転標準化研究所（事務局：JASIC）における国際標準化活動との協調を加速する
- ・欧米との戦略的協調体制およびアジア地域における国際標準化活動連携体制の構築を推進する
- ・国際標準化活動の意義や重要性、自動車業界の取り組み状況、活動成果を広く紹介し、国際標準化活動の理解促進を図る

### ② 人材育成事業の拡充

- ・自動車工学基礎講座を継続・拡充しつつ情報通信系や理数学系の技術習得および人材確保に向けた新たな教育プログラムを提供する
- ・大学生を対象とした自動運転技術など新たな技術領域の人材育成を目的とする新教育プログラム（競技）を企画検討する
- ・中高生向けの新たな教育プログラムを検討する
- ・自動車工学基礎講座の拠点開催（東京、名古屋、関西及びタイ）、企業派遣講座ならびに地方自治体との連携開催を実施する
- ・最新技術分野の基礎講座企画（自動運転、MBD 開発等）、既存講座科目への取り込みを推進する

### ③ 最新自動車技術の継続発信と技術者交流の促進

- ・新技術領域をタイムリーに取り込むとともに技術者交流の場として人とくるまのテクノロジー展、新車セミナー、シンポジウムならびにフォーラム等の開催を促進する
- ・新技術領域の取り込みおよび学際領域における他分野との連携を検討し専門委員会をタイムリーに設置する
- ・人とくるまのテクノロジー展 名古屋の発展的拡大を目指す

- ④ 会員満足度の高い刊行物の継続発刊、ならびに論文集事業の強化
- ・英語論文集（International Journal of Automotive Engineering）の Web of Science への登録実現に向けた施策を継続検討する
  - ・本会の豊富な文献（1,000件／年超）を活用した新たな刊行物を発刊する
  - ・新版「自動車技術ハンドブック人間工学編（第3分冊）」をベースとした自動車人間工学に関する英文書籍を発刊する
  - ・自動車関連図書のラインナップ充実のための取り組みを継続する
- ⑤ 会員サービスの拡充
- ・既存会員の満足度向上、および新たな会員層を取り込むため会員サービスの拡充を推進する
  - ・会員情報システムの機能拡張を通して会員にタイムリーに情報を提供するための仕組みを検討する
  - ・新たな会員層、特に女性技術者、生産技術者、IoT 技術者への交流機会提供やサービスの拡充を推進する

## 2. 予算編成の基本方針

- ・公益法人に求められる財務3要件である、①収支相償、②公益目的事業比率50%以上③遊休財産額の保有制限に対する率100%以内を満たす予算を策定する
- ・新規会員獲得及び既存会員の満足度向上を意識した支出・投資予算を策定する

# 1 総 会

第8回定時総会を2018年5月24日（木）パシフィコ横浜（横浜市）において開催する。予定議案は次のとおり。

議決事項 2017年度決算報告の件、2018-2019年度理事選任の件、2018-2019年度監事選任の件、  
役員の報酬等承認の件 名誉会員推薦の件

報告事項 2017年度事業報告の件、2018年度事業計画の件、2018年度予算の件、2050年チャレンジ～自動車技術会ロードマップ改定の件

## 2 役員会

2.1 理事会を5回開催する。

2.2 会の運営を円滑に図るため会務担当理事会を4回、各支部間及び本部との調整を図るため支部担当理事会を2回開催する。

## 3 調査及び研究（定款第5条1号、公益目的事業1）

技術会議では、最新の技術課題に取り組み、部門委員会活動に反映するとともに、その活動成果を学術講演会、フォーラム、シンポジウム・講習会および国際会議などを通じて社会に広く情報発信し、自動車技術の更なる進歩向上に寄与する。

2017年度に各部門委員会が新規策定した技術ロードマップを、ウェブ上で公開の予定。

共同研究センターでは、産学官連携事業、他学協会との連携事業、受託事業を推進し、研究・技術に対する提言を行う。

技術会議運営検討委員会と共同研究センター運営委員会が連携し、新しい技術分野の委員会や、異分野領域と連携した技術委員会の企画・設置・改廃検討を行う。

### 3.1 技術会議

#### (1) 技術会議

技術の向上を目指す各種活動の企画、推進、調整のための議論を行い、技術会議組織の適正な運営を図る。

#### (2) 部門委員会・特設委員会

45 部門委員会、2 特設委員会が各種技術課題に取り組み、活動成果を会員・社会に還元する。

- ① 2018 年春季大会において、オーガナイズドセッション、ならびにフォーラムを開催する。
- ② 2018 年名古屋展示会において、フォーラムを開催する。
- ③ シンポジウム・講習会を開催する。
- ④ 公開委員会の開催、会誌記事掲載、ならびに技術報告書の発行他を行う。

#### (3) 学術講演会運営委員会

春季・秋季の学術講演会の活発化を図る。

#### (4) 国際会議等への対応

下記委員会組織により 2018～2019 年度に開催する国際会議の開催準備を進める。

<主催>

- ① EVTeC2018 論文委員会 (2018年9月30日～10月3日 神戸国際会議場(神戸)／EVS-31  
とテクニカルセッションにおいて共催)
- ② 2019P, F&L 実行委員会 (2019年8月25日～29日 京都テルサ 京都)
- ③ SETC2019 実行委員会 (2019年11月19日～21日 広島国際会議場 広島)

EVTeC: International Electric Vehicle Technology Conference

EVS: Electric Vehicle Symposium & Exhibition

P,F&L: Powertrains, Fuels & Lubricants Meeting, SETC: Small Engine Technology Conference

(5) 他学協会との連携

- ① 自動車用材料共同調査研究会 (日本鉄鋼協会)

### 3.2 共同研究センター

(1) 委員会

下記 6 委員会により活動を推進する。活動成果は、学術講演会やフォーラム、または技術報告書等により会員・社会に還元する。

- ① 将来の先進安全技術に関する人間受容性検討委員会
- ② 交通事故自動通報による救急医療改革推進に関する委員会
- ③ 国際標準記述によるモデル開発・流通検討委員会
- ④ 自動運転委員会
- ⑤ サイバーセキュリティ講座企画委員会
- ⑥ 将来の車外騒音検討委員会

(2) 他学協会との連携

2018 年度は無。

### 3.3 研究調査事業

技術会議及び共同研究センター傘下の 10 委員会が 13 テーマで実施 (総額予算 8,300 千円)。

### 3.4 受託事業

技術会議及び共同研究センター傘下の委員会により以下を実施する。

- (1) SAE World Congress 等海外における PM 研究動向の最新研究調査

(大気環境技術・評価部門委員会／受託先：日本自動車工業会)

- (2) 今後の車外騒音規制のあり方に関する調査 (将来の車外騒音検討委員会／受託先：環境省)

PM: Particulate Matter

## 4 研究発表会及び学術講演会等の開催

(定款第 5 条 2 号、公益目的事業 2・3・自動車技術展は収益事業)

春季及び秋季大会は、学術講演会を中心に多くの技術者の交流の場とする。「人とくるまのテクノロジー展」は 5 月春季大会時の横浜、並びに 7 月名古屋の年 2 回の開催とする。

### 4.1 春季大会

2018 年 5 月 23 日 (水)～25 日 (金) にパシフィコ横浜 (横浜市) で開催する。学術講演会

のほか、人とくるまのテクノロジー展 2018 横浜、Keynote Address、各種フォーラム、JSAE Annual Party（技術者交流会）、女性技術者交流会を開催する。

#### 4.2 秋季大会

中部支部の協力を得て、2018年10月17日（水）～19日（金）に名古屋国際会議場（名古屋市）で開催する。学術講演会、Technical Review、市民公開特別講演、産学ポスターセッション、学生フォーミュラ車両展示、秋季大会パーティ（技術者交流会）を実施する。

#### 4.3 自動車技術展

##### ① 人とくるまのテクノロジー展 2018 横浜（2018年5月23日（水）～25日（金））

パシフィコ横浜（横浜市）

特別企画として「社会を、生活を変えてゆく、自動運転技術」をテーマに講演会、技術展示を実施する。また、最新車の開発秘話などについて開発責任者が語る特別講演を実施する。屋外では最新車の公道試乗会を実施する。

##### ② 人とくるまのテクノロジー展 2018 名古屋（2018年7月11日（水）～13日（金））

ポートメッセなごや（名古屋市）

特別企画として「モノづくりニッポン、未来を拓く“知恵・技・匠”」をテーマに技術展示を実施する。また、最新車を取り上げ、講演会場に展示した車両やその構成部品等と共に開発責任者らが語る特別講演を実施する。中部支部企画の講演会を実施する。屋外では最新車などの公道試乗会を実施する。

#### 4.4 シンポジウム・講習会

技術会議及び共同研究センター傘下の各委員会企画により16回開催する。

#### 4.5 国際会議

専門技術分野の国際会議を以下のとおり開催する。

- ・ The 31st Electric Vehicle Symposium & Exhibition & International Electric Vehicle Technology Conference 2018 (EVS 31 & EVTc 2018)  
2018年9月30日～10月3日 神戸国際会議場（神戸）
- ・ Small Engine Technology Conference 2018 (SETC 2018)  
2018年11月6日～8日（デュッセルドルフ）

## 5 学術誌及び学術図書の刊行（定款第5条3号、公益目的事業1・2・3）

自動車に関する学術や産業の振興への寄与のために、各種出版物の刊行によって自動車技術情報を広く会員、および国内外に発信するとともに、編集会議2050年ロードマップの各項目実現に向けた具体策を検討する。

### 5.1 資料収集・調査研究に関する学術誌の発行（公1）

#### (1) 会誌「自動車技術」

- ・ 各号特集テーマを設け（8月年鑑号を除く）、最新の技術動向に沿ったタイムリーな記事を掲載し、毎月発行する。
- ・ 海外への技術情報発信の一環として、8月年鑑号英訳版のウェブサイト公開を継続する。

- (2) 「自動車技術文献抄録誌」を毎月発行し、技術者・研究者に海外文献を中心とした有益な情報を提供する。
- (3) 「JSAE エンジンレビュー」を電子版不定期刊行物として継続発行する。
- (4) 「日本の自動車規格 (DVD-ROM 版)」の日本語版、および英語版を発行する。
- (5) 第68回自動車技術会賞技術開発賞受賞者のインタビュー集である「オートテクノロジー2019」を発行する。
- (6) 「人とくるまのテクノロジー展」と連動した記事広告誌「テストングツール最前線」および「次世代自動車技術最前線」を発行する。
- (7) 「高翔」(関東支部企画・編集)、「宙舞」(中部支部企画・編集)、「関西支部ニュース」(関西支部企画・編集)を発行する。

## 5.2 研究発表に関する学術誌の発行 (公2)

- (1) 「自動車技術会論文集」
  - ・ J-STAGE にて年6回発行する。
  - ・ 現行の論文査読システムに代わり新システムを導入する。
- (2) 「International Journal of Automotive Engineering : 英文ジャーナル」
  - ・ J-STAGE にて年4回発行する。
  - ・ “Web of Science” への登録実現に向けた具体的施策を進める
- (3) 春季・秋季大会学術講演会講演予稿集 (DVD)、およびフォーラム資料を発行する。学術講演の英文抄録である Summarized Paper はウェブサイトで引き続き公開する。

## 5.3 人材育成に関する学術図書の発行 (公3)

- (1) シンポジウム及び講演会資料を発行する。
- (2) 「ドライブレコーダは見た、Vol.5」を制作し、発行する。
- (3) 新版「自動車技術ハンドブック人間工学編 (第3分冊)」をベースとした自動車人間工学に関する英文書籍を発刊する
- (4) 関西支部学自研機関誌「関西支部学自研ニュース」(2回)、九州支部学自研機関誌「Eternal Car Life Vol.21」を発行する。

## 5.4 広報関連他の発行

- (1) 「第16回全日本 学生フォーミュラ大会レビュー」(ウェブ版)を発行する。
- (2) JSAE メールマガジン (インターネット配信) を週1回発行する。
- (3) 国内への広報活動としてプレスリリースを発行すると共に、ニュースレター JSAE Eye の日英版をそれぞれ年4回発行して国内外への広報に努める。
- (4) 支部だより (北海道支部1回)、行事案内 (関東支部6回、関西支部7回)、支部ニュース (中部支部6回) を発行する。

## 5.5 その他

- (1) 本会発行文献を活用した新たな刊行物の発刊検討を進める。



## 6 人材の育成（定款第5条4号、公益目的事業3）

次世代エンジニアの育成の活動として、小学生向けに「キッズエンジニア」、中高生を対象とした「次世代カーデザイナー人材育成プログラム（学習・コンテスト・進路案内）」、大学生向けに「全日本 学生フォーミュラ大会」等ものづくり教育の場を提供する。学生自動車研究会活動を全国で展開し、工学・工業への興味を喚起し次代を担う技術者養成に努める。また、技術者認定制度及び各種講座・講習会の開催により、技術者の継続能力開発（CPD）を支援する。

### 6.1 講習会

2018年9月、10月、11月に技術会議傘下部門委員会企画の講習会を開催する。

### 6.2 自動車工学基礎講座

2018年8月に名古屋、12月に関西、2019年3月に東京で開催する。また、タイ国内で自動車工学基礎講座を冬頃に開催する。その他、二輪エンジニア向け講座、地方自治体や賛助会員向けの講座も継続開催する。

### 6.3 自動車工学中級講座

中堅技術者を対象とし、技術者育成委員会及び技術会議傘下部門委員会や共同研究センター下の委員会と共に企画・実施する。

### 6.4 技術者育成講座

新入会員や学生会員を対象とし、自動車技術会の活動に参加する契機となることを目指した講座を、東京・名古屋において企画・実施する。

### 6.5 サイバーセキュリティ講座

自動車のサイバーセキュリティに関する講座の内容を拡充し、8月に開催する。

### 6.6 自動車開発・製作セミナー

学生フォーミュラカーを題材とした自動車開発・製作セミナーを継続開催すると共に、学生にとって有益な情報を配信する。

### 6.7 支部の講演会・見学会等

- (1) 北海道支部：講演会3回（地方講演会、共催を含む）、見学会1回、市民講座1回を開催する。
- (2) 東北支部：講演会2回、見学会2回（関東支部との共同企画含む）社会貢献活動として市民講座8回を開催する。
- (3) 関東支部：講演・講習会11回、見学会11回、支部社会活動として公開講座を開催。学生の国際交流活動を継続実施する。技術者交流会を開催する。社会貢献活動として第9回群馬県高校生電気自動車大会に参画する。
- (4) 中部支部：見学会14回、技術講習会5回、技術者懇談会3回、技術交流会2回、体験型講習会1回を開催する。
- (5) 関西支部：見学会6回、講演会1回、技術者懇談会1回、技術者交流会1回を開催する。
- (6) 九州支部：関西支部との合同例会1回、講演会3回、見学会1回、市民講座4回、技術者交流会1回を開催する。

### 6.8 技術者・研究者の認定制度

自動車エンジニアレベル認定において技術的な能力開発や実務経験の実績により技術レベル

を認定する。

#### 6.9 第16回 全日本 学生フォーミュラ大会—ものづくり・デザインコンペティション—

2018年9月4日(火)～8日(土)の5日間にわたってエコパ(小笠山総合運動公園、静岡県掛川市/袋井市)で開催する。

#### 6.10 キッズエンジニア2018

2018年7月27日(金)～28日(土)にパシフィコ横浜(横浜市)で開催する。

#### 6.11 支部の小学生プログラム

- (1) 東北支部：クルマへの関心とものづくりへの興味を高める目的として「キッズエンジニア in 東北2018」を1回(支部主催で開催、仙台市科学館・協力企業・本部と連携)と「自動車の将来と電気自動車の構造」、「第4回走るペーパーカーの製作及び走行距離競技大会」を各1回開催予定。
- (2) 関東支部：「小学生くるま未来体験教室」を7回開催(うち1回は他支部との共同開催)
- (3) 中部支部：「キッズ・モノづくりワンダーランド」を8回開催する。
- (4) 関西支部：「キッズエンジニア」を2回開催する。

#### 6.12 学生生活動企画委員会

全日本 学生フォーミュラ大会を始めとする学生生活動の支援、ウェブやSNS (Facebook) による学生向け情報発信などの活動を行う。

#### 6.13 FISITA 2018 チェンナイ大会 (2018年10月2日～5日、チェンナイ、インド)

学生、若手エンジニアを対象プログラムに派遣する。

#### 6.14 学生安全技術デザインコンペティション

2019年6月にオランダで開催される世界大会へ日本代表チームを派遣すべく、2019年3月に日本大会(選考大会)を開催する。

#### 6.15 中高生等を対象とした「次世代カーデザイナー人材育成プログラム」

中高生等を対象として、創造的なカーデザインの魅力を喚起し、職業意識を目覚めさせる機会を提供することを目的とした人材育成プログラムとして、ウェブサイト上に学習プログラムと進路案内を公開、及び第7回カーデザインコンテストを実施する。(企画：デザイン部門委員会)

#### 6.16 学生自動車研究会 (以下学自研)

##### (1) 北海道支部

学生フォーミュラ車検講習会1回、学生フォーミュラ合同試走会2回、全日本 学生フォーミュラ大会参戦報告会1回、参与会議3回、雪氷路セーフティドライビングコンテスト1回開催。第16回全日本 学生フォーミュラ大会に参加予定。

##### (2) 東北支部

支部学自研大会1回、運営委員会3回、学自研参与会2回、特別講演会1回、見学会1回、第37回タイヤ研修会、第28回自動車技術独創アイデアコンテスト1次・2次、第29回手作り自動車省燃費競技大会、第33回自動車整備コンテストを各1回開催。第5回学生 EV フォーミュラ支部試走会2回開催、第16回全日本 学生フォーミュラ大会へ2チーム参加予定。

##### (3) 関東支部

支部学自研大会1回、支部学生委員会12回、支部学術研究講演会・特別講演会1回、見学会・

講習会等を6回開催。学生フォーミュラ活動を積極支援し第16回全日本 学生フォーミュラ大会に参加。並行してフォーミュラ試走会を3支部合同で1回、支部単独で1回開催。

#### (4) 中部支部

参与会2回、学生委員会5回、学術講演会（機械学会）1回、新入生ものづくりセミナー1回、スズキエンジン講習会1回、カート耐久レース1回、車両運動勉強交流会1回、三支部合同試走会1回、人とくるまのテクノロジー展（プレゼン、車両展示）1回、走行技術トレーニング2回（3日間）、ドライビング講習会1回、基礎技術交流会1回、学生フォーミュラ OBOG 交流会1回、中部支部交流会1回、学生委員会引継会1回を開催。また、中部支部社会貢献事業への支援を実施。

#### (5) 関西支部

参与会1回、運営委員会4回、講演会4回、見学会8回、キッズエンジニア、危険回避運転講習会、新車試乗技術説明会、卒業研究発表会、学自研入会説明会各1回開催。支部学自研ニュース発行2回。学生フォーミュラ関係は運営委員会を11回開催し、講習会・勉強会計9回、報告会4回、試走会6回開催。

#### (6) 九州支部

支部学自研総会1回、研究発表会1回、講演会1回、見学会2回、安全運転講習会1回及び懇親会1回開催。第16回全日本 学生フォーミュラ大会へ7校がエントリー予定。学生フォーミュラ試走会5回を開催。学自研機関紙発行1回。

## 7 規格の作成及び普及（定款第5条5号、公益目的事業1）

2050年を長期目標とした規格会議ロードマップを踏まえ、ISO/TC22（自動車）とISO/TC204（高度道路交通システム）の活動が活発化している中、自動車標準化委員会（ISO/TC22）とJIS/JASO規格審議委員会は「第10次自動車に関する規格制定・改正長期計画（2016年度～2020年度）」、ITS標準化委員会（ISO/TC204）は「ITS分野の国際標準化戦略5か年計画（2018年）」に基づく活動を加速するとともに、日本自動車工業会、日本自動車研究所、関連省庁/団体と連携し、日本の優れた技術（自動運転、電動車、情報通信/情報セキュリティ）について、標準化活動を通じて世界への普及促進を図る。特に、自動運転の国際標準化に関して、自動運転標準化検討会において両委員会の連携を図るほか、自動運転標準化研究所（JASIC）において基準と標準の連携を図る。

### 7.1 自動車標準化委員会及びJIS/JASO規格審議委員会（自動車分野）

国内標準化活動から国際標準化活動への急速なシフトに対応するとともに、国内標準化活動の迅速化・効率化に対応するため、自動車標準化委員会及びJIS/JASO規格審議委員会を設置する。「第10次自動車に関する規格制定・改正長期計画（2016年度～2020年度）」に沿って、自動運転、電動車、情報通信/情報セキュリティを中心に、より戦略的な標準化活動を推進するとともに、長期計画の中間レビューを行う。

また、規格会議ロードマップで掲げられている超スマートモビリティ・社会の将来像の実現に向け、戦略企画機能を強化するための委員会設置を検討する。

(1) 国際標準化活動 (ISO/TC22)

- ① ISO/TC22/SC32 (電子・電装分野) 議長・幹事国および SC38 (モーターサイクル・モペット) 議長国としてリーダーシップを示していく他、各 SC および傘下の WG にエキスパートを積極的に派遣し、電子技術、安全・環境・二輪分野などにおける新規作業項目提案 (NWIP) を実施する等、国際標準化活動に積極的に参画する。
- ② 日本自動車工業会 (国際標準検討会・自動運転検討会)、日本自動車研究所 (ISO/TC22/SC37) などと連携し、新規領域、受け皿のない領域等について情報共有や課題発掘を行っていく。
- ③ ISO エキスパート、ISO 対応委員会委員などを対象に ISO 研修会を開催する。
- ④ 日欧米の交流を継続するとともに、アジア地域の標準化活動を促進させるためにアジア諸国との連携を図る。

(2) 国内標準化活動 (JIS/JASO)

- ① JASO 制定6件・改正6件、テクニカルペーパー制定1件、JIS 制定2件・改正1件及び標準化調査10件を行う。
- ② JIS・JASO 原案の質の向上を図る為、JIS・JASO 原案を作成する委員会委員を対象に規格原案作成講習会を実施する。
- ③ ISO・JIS・JASO の規格活動への理解促進を図るため、春季大会国際標準化フォーラム開催や広報メディア作成などによる広報活動を進める。

7.2 ITS 標準化委員会 (高度道路交通システム分野)

2017 年度に策定した「ITS 分野の国際標準化戦略 5 ヶ年計画 (2018 年)」に沿って、特に日本が議長国である WG3 (ITS データベース技術) と WG14 (走行制御) において、自動運転などに関する国際標準化活動を戦略的に推進する。

(1) 国際標準化活動 (ISO/TC204)

- ① 第51回 (於ソウル、韓国) および第52回 (於欧州) の TC204総会への日本代表団派遣、WG14国際会議への専門家派遣を行い、日本の貢献をより高めていく。
- ② TC22 (自動車) や ETSI (欧州電気通信規格協会) など関係団体と連携しつつ WG14 の標準化作業項目を進める。
- ③ 欧米の動向に関して情報収集や分析を行う。特に、新たな標準化要請 (Mandate/546) が発出された欧州の動き (Urban ITS) に注目する。
- ④ ITS AP 福岡において標準化セッションを実施し、アジア太平洋地域の ITS 関係者に最新の国際標準化活動を紹介する。

(2) 国内標準化活動

- ① ITS 標準化委員会・技術委員会について、本会が事務局として活動する。分科会は、本会 (WG14) のほか、日本自動車研究所 (WG1)、日本デジタル道路地図協会 (WG3)、UTMS 協会 (WG4、9、10)、道路新産業開発機構 (WG5、7、18)、国土技術研究センター (WG8) 及び電子情報技術産業協会 (WG16、17) が分担して事務局を担当する。
- ② 自動運転に関する国内開発動向を把握するとともに、日本自動車工業会をはじめとする関係団体、国家プロジェクトである戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) とも連携を図る。

- ③ ITS 分野の国際標準化戦略 5ヶ年計画（2018年）のメンテナンスを行う。
- ④ ISO/TC204の専門家会議を開催する。

## 8 内外の関連機関、団体等との提携及び交流

（定款第5条6号、公益目的事業2）

従来活動を継続推進する一方、関連学協会やアジア各国との連携をさらに強化し相互の利益を図る。

### 8.1 国内関連機関及び団体との連携

- (1) 日本学術会議の協力学術研究団体として学術振興に努める。
- (2) 日本工学会の加盟団体として他学会との連携に努める。
- (3) 経済産業省の日本工業標準調査会（JISC）の自動車他、各技術専門委員会に委員を派遣し積極的に参画する。
- (4) 各国国土交通省が主催する第26回 ESV 国際会議（2019年6月オランダ）で開催される「第8回学生安全技術デザインコンペティション」に向けて日本代表チームの選考活動を推進する。
- (5) 日本機械学会が幹事となり、第29回内燃機関シンポジウムを共催する。
- (6) 日本自動車工業会国際標準検討会、および自動運転検討会と連携し情報交換を行い、標準化活動を実施する。
- (7) 日本鉄鋼協会と材料部門委員会が共同設置した「自動車用材料共同調査研究会」の活動を引き続き推進する。
- (8) 自動車制御とモデル委員会と計測自動制御学会の連携活動を引き続き推進する。
- (9) 構造形成技術部門委員会と新構造材料技術研究組合（IZMA）の連携活動を推進する。

### 8.2 国外関連機関及び団体との連携

- (1) 2018年9月に開催する第16回 全日本 学生フォーミュラ大会ーものづくり・デザインコンペティションーに、アジアなど海外からの参加を得る。
- (2) 全日本 学生フォーミュラ大会の機会を利用して各国との交流促進を図る。
- (3) 中国自動車工程学会年会におけるフォーラム開催など、中国自動車工程学会（SAE-China）との連携を推進する。
- (4) 韓国自動車工学会年会におけるフォーラム開催など、韓国自動車工学会（KSAE）との連携を推進する。また、包括協力協定に基づき、双方の年次大会のPRを実施する。
- (5) 2018年末頃に第4回自動車工学基礎講座 in タイを在タイ日本大使館の後援を得て、NSTDA（タイ国立科学技術開発庁）と共催する。
- (6) FISITA の執行役員会並びに理事会に副会長、理事を派遣して協力する。
- (7) FISITA 2018（2018年10月2日～5日、チェンナイ）の開催に協力する。
- (8) APAC Members Meeting などの開催を通じて、アジア地域の連携を強化する。
- (9) EVS 31 & EVTeC 2018（2018年9月30日～10月3日、神戸）を開催する。
- (10) SETC2018（2018年11月6日～8日、デュッセルドルフ）を SAE International と共催す

る。

- (11) 欧州、米国やアジア諸国の主要な標準化団体との連携を促進する。
- (12) 国際標準化活動におけるアジアの仲間づくりとして、ITS AP Forum 福岡で標準化セッションを実施する。

ESV: International Technical Conference on the Enhanced Safety of Vehicles

FISITA: International Federation of Automotive Engineering Societies

APAC: Asia Pacific Automotive Engineering Conference

EVS: International Electric Vehicle Symposium & Exhibition

EVTeC: International Electric Vehicle Technology Conference

SETC: Small Engine Technology Conference

## 9 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条7号、公益目的事業3）

自動車技術会賞等各賞の社会への周知を図り、賞の価値を高めていく。

### 9.1 技術者・研究者対象の研究業績等の表彰

- (1) 自動車技術会賞：学術貢献賞、技術貢献賞、浅原賞学術奨励賞、浅原賞技術功労賞、論文賞、技術開発賞の各候補者の積極的な募集を図り、各賞の主旨に相応しい優秀な業績に対し表彰を行う。
- (2) 技術教育賞：優れた人材育成活動を行った個人若しくはグループを表彰する。
- (3) 優秀講演発表賞：春季・秋季学術講演会の優秀講演者を表彰する。
- (4) 技術部門貢献賞：技術会議の各部門委員会の活発な活動を行った個人を表彰する。
- (5) 自動車技術会フェロー：本会活動への多大な貢献をした個人に授与する。
- (6) 標準化活動功労感謝状：標準化活動向上に顕著な貢献があった個人に感謝状を贈呈する。
- (7) 編集・出版功績感謝状：本会の出版物の編集・出版活動に顕著な貢献があった個人・団体に感謝状を贈呈する。
- (8) 学術講演会運営功績感謝状：学術講演会の運営に顕著な貢献があった個人・団体に感謝状を贈呈する。
- (9) 技術者育成功績感謝状：本会の技術者育成活動に顕著な貢献があった個人・団体に感謝状を贈呈する。

### 9.2 学生対象の業績表彰

- (1) 大学院研究奨励賞：優れた研究を行った大学院修了予定者を表彰する。
- (2) 学自研功労賞：学生自動車研究会の活動で特に功労のあった学生を表彰する。

## 10 その他この法人の目的を達成するために必要な事業

（定款第5条8号）

公益法人として会務運営について厳格に関係法令を遵守し、また社会倫理に適合した公正で誠実な活動を推進する。

本部・支部ウェブサイトの利便性向上及び掲載情報の充実と共に、国内外への情報発信・広報活動に努める。

既存会員の満足度向上、及び女性技術者、生産技術者、IoT 技術者などの新たな会員層を取り込むため、会員サービスの拡充を推進する。

10.1 法令、ならびに定款・規則を遵守した会の運営を行う。また、総会、理事会の運営を適正に行い、今後予定される国からの監査にも問題なく対応できるようにする。

10.2 公益社団法人として必須の①収支相償、②公益目的事業比率50%以上、③遊休財産額の保有制限の充足を安定的に達成していける事業構成とする。

10.3 「2050年チャレンジ」を実行に移していく。

10.4 会員増と新事業展開に対応するため、本部及び支部の事務局体制の充実をはかる。

10.5 システム構築

(1) 会員サービス拡大のため、本部・支部用サーバのクラウド移行を検討する。

(2) 本部・支部ウェブサイトのリニューアルを継続する。

10.6 支部総会・役員会

(1) 北海道支部：支部通常総会1回、特別講演会1回、支部理事会2回を開催する。

(2) 東北支部：支部通常総会1回、特別講演会2回、支部理事会3回、支部顧問会1回、学自研  
参与会2回を開催する。

(3) 関東支部：支部通常総会1回、顧問会1回、理事会3回（内、顧問同席2回）、担当理事会30  
回を開催する。

(4) 中部支部：支部通常総会1回、顧問会1回、理事会2回、担当理事会2回、常任幹事会4回、  
担当幹事会4回、さんぼう会2回、各事業別企画委員会を開催する。

(5) 関西支部：通常総会1回、理事会2回、合同会議1回、各事業別企画委員会4回、編集委員  
会4回を開催する。会員増強のため、会員・魅力拡大会議3回を開催する。

(6) 九州支部：支部定時総会1回、理事会2回、常任理事会4回を開催する。

## 参考：事業区分の説明

### 公益目的事業 1 資料収集事業・調査研究事業

専門家による研究・調査に関する委員会活動並びに規格・標準化の推進及び普及活動を通して、自動車に係わる技術情報を調査・収集・選定・提供することにより、自動車の環境性能、安全性能及び利便性の向上に寄与する事業

- ・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術、抄録誌、諸元表等）
- ・調査及び研究（定款 5-1）
- ・規格の作成及び普及（定款 5-5）

### 公益目的事業 2 研究発表事業・表彰事業

国内外の技術者及び研究者に対して研究成果発表の機会を提供し、技術情報及び技術者・研究者間の交流を促進することにより、技術及び研究レベルの向上を図り、自動車技術の発展に寄与する事業

- ・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：春季大会、秋季大会）
- ・内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款 5-6：FISITA、APAC、SAE-Intl.等）
- ・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術会論文集、IJAЕ 誌、予稿集等）

### 公益目的事業 3 人材育成事業

児童、学生及び技術者の各層に対応した教育プログラムを提供すると共に、教材の開発、優秀技術者の表彰及び資格付与を行うことにより、人材の育成を図る事業

- ・人材の育成（定款 5-4）
- ・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：シンポジウム等）
- ・学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：ハンドブック、用語辞典、教育図書等）
- ・研究の奨励及び研究業績の表彰（定款 5-7）
- ・支部活動（定款 5-8：講習会、見学会等）

### 収益事業 展示会事業

自動車に係わる技術者及び研究者を対象として、最新技術に関する製品展示及び技術発表を行い、技術及び研究レベルの向上に寄与するとともに、利益を公益目的事業の実施に資する事業

- ・研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：展示会）

### その他事業 会員事業等

各地域での会員間の交流を促進し、事業活動の活性化を図ることにより、自動車技術会の活動基盤の強化に寄与する事業